

# 特 集 愛着を感じ、会いに行きたいまちに ～こだいら観光まちづくり協会～

約半年間の設立準備期間を経て、昨年6月に発足したこだいら観光まちづくり協会。  
その後の動きについて事務局長の出口拓隆氏にお話を伺いました。



事務所の看板

こだいら観光まちづくり協会は、小平を「住み続けたい！訪れたい！」と思えるまちにするために設立された地域・民間主体の組織で、「小平市観光まちづくり振興プラン」で示されているアクションプラン10ヶ年（2014～2023年）計画の実現に向けて活動しています。出口氏曰く「観光協会とは一味違って「まちづくり」が入っているんです。問題は、どうやって取り組むかです。異分子を入れる、俗に言う“よそもの、若もの、バカもの”ですね。特によそ者の視点は重要です。住民では見過ごしている街の魅力に気づかせてくれますから。」

協会の会員（会費制）になると、①3つあるワーキング・グループ（広報、イベント、人材育成）に参加して事業を企画・運営することができ、②イベントへの優先的な出店やその出店料の優遇が受けられ、③ポータルサイトにお知らせをタイムリーに掲載でき、バナー広告料も優遇されるそうです。また会員とは別に「サポーター」も募集していて、イベントのサポートや小平の観光情報の取材、広報用の写真モデルなど、参加の形もいろいろあります（登録無料）。1月時点の会員数は、法人格31、団体16、個人22　計69で、思いの外たくさんの方々から支援を得ることができたようですが、企業からの支援を得るのはなかなか難しいらしく、「観光

まちづくり」が会社にとってどんなメリットがあるかを理解してもらうのに苦労されている様子でした。

まもなく「ポータルサイト」と「ガイドブック」が完成する予定です。観光ポータルサイトでは、小平の魅力を市民の誰でもが直接投稿でき（登録制）、それに協会がすぐ反応を返すような双方向のコミュニケーションの仕組みを作りたいとのこと。さらに2017年度は、まち歩きを主軸に事業を計画しているようです。2～3時間で歩けるモデルコースを開拓し、途中に人や食、歴史や自然も取り込み、波及効果を生み出したいとのこと。「街の魅力発掘の際にはぜひ市民活動団体を活用してほしい」と話したところ、あすぴあが発行している市民活動団体データ集『むすぶ』がすでに備え付けられていて、「さすが！」と思いました。

学園坂商店街の一角、旧居酒屋を改装して作られた事務所には事務局員が交替で常駐しています。市民がラッピと立ち寄ってまちの情報をやりとりできるHUBのような場になつたらいいなと思いました。

## こだいら観光まちづくり協会

小平市学園東町1-17-9 ☎042-312-3954

ポータルサイト：<http://kodaira-tourism.com>

（2月21日以降開設予定）

“よそものの視点”と言えば、観光まちづくり協会設立の動きとちょうど同じ頃、NPO法人小平市民活動ネットワークの事業“[みこしプロジェクト](#)”でも、「こだいらって」というタイトルで、住む街の魅力を発見する3ヶ月連続の企画を進めていました。その第1回目（7月4日）に講師として招いた西荻案内所・奥秋ご夫妻のお話は、お二人が講座に先立って2日間小平の街を巡り歩いて気づいたコトやモノが披露され、住民が見過ごしている地域資源に改めて気づかせてくれました。また第3回目（9月5日）では、一橋大学小平国際学生宿舎の外国人留学生5人によって、日本人とはまた違った角度から小平の魅力に光が当てられました。

（＊西荻案内所は昨年3月に閉所、SNSでの情報発信や「西荻まち歩きマップ」製作等は継続中のこと。）

1年ほど前、新聞で印象的な言葉を見つけました。一つは、朝日新聞「折々のことば」（2015.12.7付け）で紹介されていた経済学者・大竹文雄氏の言葉「まちの人が求めるのは、そこにあるもの。よその人が求めるのは、そこにあるもの。」もう一つは、同新聞「ひと」（2016.1.18付け）で紹介されていた、住民自らエコツアーや手がける「飯能モデル」の仕掛け人・平井純子さんの言葉。派手な観光施設はない秩父で、昔からある当たり前こそが都会の人には絶好の観光資源だと住民を説得し、「飯能モデル」を作りあげて首都圏から年間4千人強の観光客（9年で約10倍）が訪れるようになったそうで、「ないものねだりではなく、あるもの探しを。手作り感とおもてなしの気持ちがカギ」。

よくある「観光協会」とは一味違って「まちづくり」が入っていることの意味は大きいと思います。「小平ってなんにもないよね」の呪縛から脱し、一見“負”と思えることも逆手に取って楽しみに変え、新たな魅力を創り出す。そういう意味では、たぶん「観光」は人々をその気にさせる触媒となり得るでしょう。また、縦割り・分野別になりがちな行政や市民活動を横断して連携させる可能性も持っているように思います。観光まちづくり協会の活動をきっかけに、小平に“愛着”を感じる市民が増え、他所から“会い”に行きたい街になってくれることを期待したいところです。なんてったってKODAIRAにはAIが含まれているのですから。

（取材・文責：田原）

★はみだし情報★『地域×デザイン2017～まちが魅せるプロジェクト～』@東京ミッドタウン・デザインハブ  
デザインによって価値の転換をはかり魅力に変えている日本各地の取り組みを紹介。2月26日（日）まで。  
<http://www.jidp.or.jp/lids2017/>